

きべりはむし

第9巻 第2号

目 次

兵庫県のツノカメムシ	高橋 寿郎	1
宝塚市清荒神のチョウ	加藤信一郎	8
宝塚市清荒神でナガサキアゲハの春型1♂を採集	加藤信一郎	16
ミドリヒョウモン雌暗灰緑色型の採集例	松本 健嗣	16
宝塚大橋の照明灯で採集した蛾（その2）	新家 勝	17
神戸市山田町の蛾数種	松本 健嗣	21
男鹿島のクロシオキシタバ	松本 健嗣	22
西宮市角石町で採集した蛾類数種の記録	芦田 久	22
ニトベシャチホコを養父郡関宮町福定で採集	芦田 久	24
神戸では少い昆虫3種の採集例	松本 健嗣	25
宝塚市内におけるフタモンウバタマコメツキの 採集記録	新家 勝	26
兵庫県甲虫相資料・96	高橋 寿郎	27
県関係文献紹介		31
新入会員・住所変更		33

兵庫昆虫同好会

1981年11月

兵庫県 の ツ ノ カ メ ム シ

高 橋 寿 郎

ツノカメムシ類 (Acanthosomatidae) は大変美しい種が多いので注意して採集しているがなかなか集らない種が多くある。充分ではないが現時点で県下にどの位の種が分布しているかここにまとめて見た。

同定に就いては出来るだけ慎重にしたが尚浅学未熟のため誤りがあるやも知れない御教示、御叱正頂ければ幸である。

Family Acanthosomatidae ツノカメムシ科

1. *Acanthosoma denticauda* Jakovlev セアカツノカメムシ

本種は *Acanthosoma* 属の中では一番多くいる種であり平地から山間部にかけて生息している。一般にミズキ、サクラ、ヒノキ、ツタウルシ、スギなどの実より吸汁するほかヌルデ、ニガキの枝に多数つくことがあると云われている。時には気流に乗って多数の個体が山頂に集ることがあるとの報告もある (宮本、1965)。

本種の卵、幼虫の各令期の図説は小林氏の報文があり、食草としてミズキ、ツタウルシ、ヤマウルシ、ヤシヤブシ、アセビ、アカシデを記録しておられる (1958, 1959)。

兵庫県下でも次に記す様に広く分布している (筆者採集、標本所有のものにはデータをつけた)。

中西氏は六甲山でヤシヤブシの実に集る少数の幼虫を採集、さらにアセビの実に多数寄生しているとの報告をしておられる (1953)。

産地：三原郡諭鶴羽山〔友国、1974〕。神戸市六甲山〔中西、後藤、1953〕(1♂, 15-VII-1956), 烏原(1♀, 23-V-1979, 1♀, 15-VI-1980, 1♀, 22-V-1981, 1♀, 6-VI-1981), 有馬(1♂, 2-X-1980)。明石市明石公園(1♂, 15-VI-1975, 1♀, 21-VI-1975)。神崎郡大河内町川上(1♀, 18-VI-1977, 1♀, 3-VI-1977)。相生市三濃山(1♀, 6-V-1973)。多紀郡篠山(1♀, 17-IV-1976)。氷上郡〔山本、1954, 1958〕。城崎郡蘇武岳, 三川山〔高橋、1975〕。美方郡扇ノ山〔高橋、1975〕。

2. *Acanthosoma expansum* Horvath エゾツノカメムシ

本種は県下では大変少いようで産地は次の2ヶ所しか知られていない。山地のミズキなどの潤葉樹上で見られる。

産地：宍粟郡波賀町音水（1♀，27-V-1979）。養父郡氷の山〔高橋，1975〕。

3. *Acanthosoma haemorrhoidale angulatum* Jakovlev ツノアカツノカメムシ

非常に珍しい種で内海功一氏が船越山で採集されている記録を知るのみである。データの3月採集のものは越冬中のものであったと。データの御教示を頂いた内海功一氏に厚く御礼申しあげる。

産地：佐用郡南光町船越山〔1♂，1♀，27-III-1979，1♀，20-X-1979，K. Utsumi leg.，内海，1980〕。

4. *Acanthosoma forficula* Jakovlev ヒメハサミツノカメムシ

本種も兵庫県下では少い種である。山地性でブナ帯に棲息し、ミズキ、クマノミズキ、ウコギ、ツタウルシ等の実を吸汁するといわれている。

産地：宍粟郡赤西（1♂，9-I-X-1978）。養父郡氷の山々頂〔日浦，宮武，1979〕。美方郡扇ノ山〔黒田，1964.，高橋，1975〕。

5. *Acanthosoma labiduroides* Jackovlev ハサミツノカメムシ

雄は前胸背側角は美しい紅色で生殖節の鉤状突起は赤色で長く左右のものはほぼ平行して後方に向い見事である。

山地のミズキなどの潤葉樹上に生活するが気流に乗って山頂に集ることがあるとのこと。ヤマウルシ，ツタウルシ，ミズキなどの実より吸汁し，7～8月に産卵し，9月より新成虫があらはれ関東地方では山地の実のなっているミズキに5～11月まで見られるそうである（立川，1975）。卵及び幼虫各令期の図説は小林氏の貴重な報文がある（1959）。氏によれば四国ではこの種は1年1世代で卵は6月中旬から7月下旬迄見られ、新成虫は7月下旬から9月中旬迄見られ越冬は成虫態であると。

兵庫県下では比較的全般に分布しているように思われる。

産地：津名郡常隆寺山〔堀田，1975〕。川西市笹部〔仲田，1978〕。川辺郡猪名川町内馬場〔仲田，1978〕。神戸市烏原（1♂，9-V-1981）。明石市明石公園（1♀，15-VI-1978）。多可郡三谷（1♀，24-V-1975）。相生市三瀬山（1♂，3-V-1969，1♂，18-V-1974）。宍粟郡音水（1♂，21-V-1972），赤西（2♂♂，27-V-1979，2♀♀，3-VI-1979），坂ノ谷（1♀，22-VII-1979）。氷上郡〔山

本, 1954, 1958]。養父郡氷ノ山(1♀, 22-VII-1956)。美方郡扇ノ山〔高橋, 1975〕。

6. *Sastragala esakii* Hasegawa エサキモンキツノカメムシ

従来モンキツノカメムシに2型あるということは故江崎博士が早く指摘しておられた(1916, 1950)。長谷川 仁氏は1959年に新にマルモンツノカメムシと区別して本種を命名された。

ミズキ, ハゼノキ, コシアブラ, カラスザンショウ, サンショウなどの樹上にすむ。♀は6月中旬ごろよりミズキの葉裏に70~80個の卵を生みつける。その卵塊上に静止して保護をすると云うのは多くの文献で紹介されているが筆者自身は野外でその有様を実検したことは無い。卵を保護する習性のあるカメムシは小林氏によって7種報告されている(1959)。卵と幼虫各令期の図説は小林氏の立派な報文がある(1959)。氏によると本種の世代はまだよくわからないが交尾とか産卵は5月末から8月中旬に見られ、新成虫は7月初めから9月中旬頃まで出現し越冬は成虫態であると。また本種の生態主として卵を守る習性の詳しい報告は長谷川 仁氏のものがある(1959)。

本種は兵庫県下では極めて普通に見出される。鳥原ではハゼノキ、コシアブラを網ですくうと多数入ってくる。内海氏はキハダの未熟な実に来ることを記録しておられる(1980)。

産地: 川辺郡猪名川町槻並(1♂, 4-V-1979)。川西市笹部〔仲田, 1978〕。神戸市六甲山〔長谷川, 1959〕, 鳥原(1♀, 4-XI-1974, 7♂♀, 11~25-V-1975, 1♀, 10-X-1975, 16♂♀, 1~29-V-1977, 95♂♀, 5~26-V-1979, 2♂♀, 1-VI-1979, 5♂♀, 22~29-V-1980, 1♂, 2♀♀, 25-V-1981, 1♂, 1♀, 26-V-1981, 1♂, 27-V-1981), 藍那(1♂, 10-VI-1978)。神崎郡大河内町川上(1♂, 14-V-1977)。朝来郡須留ヶ峯(1♂, M.Yuma leg., 9-VII-1975)。相生市三濃山(1♂, 6-V-1973, 1♂, 28-IV-1974)。宍粟郡原(5♂♀, 11-V-1979), 赤西(1♀, 27-V-1979), 音水(1♀, 20-VII-1959, 1♀, 6-V-1973, 2♀♀, 3-VI-1973, 1♀, 21-V-1979), 坂ノ谷(3♂♀, 22-VII-1979)。城崎郡三川山〔高橋, 1975〕。養父郡氷ノ山(1♀, 20-VII-1956)。

7. *Sastragala scutellata* Scott マルモンツノカメムシ

G. Lewisの採集品に基いてDistantはHiogoを記録している。これが真のこの種であるのか前記のエサキモンキツノカメムシの事であるのかははっきりしない。長谷川氏が大英博物館に保管されている標本を江崎、朝比奈両博士に調べてもらったが両者がまじっていたと記しておられる。たゞ

し基本標本はマルモンツノカメムシであったと(1959)(Scottは1874年の原記載は、G. Lewis が日本で採集したものであると書いてあっても産地に就いて何一つ書いてない。原記載の標本がHiogo産の可能性はあるわけである)。筆者は相当調べているのであるが前種はいくらでもいるが本種は残念ながら全く採集出来ないうでいた。1981年になって鳥原で叩き網で1♀を採集出来た。さらに同年5月16日拙宅を訪問された神大の池田隆直氏が神大農学部西北の地点(灘区篠原)で3 exs.を採集他にもいたことを御教示頂いた。これでやはり個体数は少いが神戸市内にいたことがわかった。たゞ今迄これだけ調べていたのに全く見られなかったのは調査が不充分だったのか不思議であるし、今年は多く発生したのかもしれない。それとエサキモンキツノカメムシより若干早い時期の様にも思われる。これらのことからもっと調査すれば県下の産地も増えることと思われる(その後池田氏は6月にも同じ所で採集された由)。

県下の記録は次の如くあるがどれもが真の本種のことであるかどうかは良くわからない。ミズキ、ヒサカキなどの樹上で生活していると云われている。最近日浦 勇氏は全国的に本種とエサキモンキツノカメムシの分布を述べておられる(1980)。それによると本種は全般に個体数が前種より少なくまた分布も関東地方にはほとんど分布していないようである(埼玉県記録がある)。垂直分布は鳥原で両者を産している、川西市あたりでも両者を産しているので特徴を見出すことは出来ないがエサキモンキツノカメムシの方が圧倒的に多くいることははっきりしている。

産地：川西市笹部〔仲田, 1978〕。Hiogo〔Distant, 1883〕。神戸市灘区篠原〔3 exs., V-1981, T. Ikeda leg.〕, 鳥原(1♀, 13-V-1981)。氷上郡〔山本, 1954, 1958〕。美方郡扇ノ山〔黒田, 1964〕。

8. *Anaxandra gigantea* Matsumura オオツノカメムシ

古く一柳氏が西宮市夙川の川端のススキをスーイピングして1♂を採集(1934年9月), さらに山路俊一氏は東灘区の魚崎の浜で採集(1936年10月31日)の記録があり共に和名だけであるがこの様に大形の種であるから同定は出来ていると思われる。

最近本種の日本に於ける分布を日浦 勇氏がまとめられた(1980)。それによると須磨一の谷産の標本が大阪市立自然史博物館収蔵標本の中に含まれていることが報告されている。筆者は残念ながら県下で採集したことがない。日浦氏がのべておられる様に本種は暖帯型の分布をしており大阪市内のような所でも発見されているからもっと良く調べれば県下での産地も見つかると思われる。食草はケンボナシ、ホルトノキ、ミズキ等があげられている。

産地：西宮市夙川畔〔一柳, 1937〕。神戸市東灘・魚崎浜〔山路, 1937〕, 須磨・一ノ谷〔日浦, 1980〕。

9. *Elasmostethus doralis* Jackovlev. アカヒメツノカメムシ

体は赤色がかった黄緑色の地に黒点の点刻が散ばっている小形のカメムシである。県下での産は大変少いようである。

産地：養父郡氷の山(lex., 27-VII-1956)。美方郡扇の山〔高橋, 1976〕。

10. *Elasmostethus humeralis* Jackovlev ベニモンカメムシ

青味を帯びた緑色で、赤褐色の腹背部が半翅鞘を通して見える。山地でハナウドなどセリ科植物の花穂上に多くいる。タラ、ウコギ、ヤシヤブシにも寄生すると。

六甲山で中西氏はヤシヤブシより幼虫を採集して実を与えて飼育に成功した報告がある(1958)。県下に広く分布している種である。

産地：川西市笹部〔仲田, 1978〕。神戸市六甲山〔中西, 後藤, 1953〕, 鳥原(lex., 1-VI-1969, 2exs., 14-V-1971, lex., 20-V-1972, lex., 25-V-1972, 2exs., 18-V-1975), 山の街(lex., 9-XI-1963)。多可郡三谷(3exs., 8-VI-1975, 4exs., 26-VIII-1975), 鳥羽(lex., 5-VII-1975)。神崎郡大河内町川上(lex., 6-VIII-1977, 3exs., 3-IX-1977)。相生市三濃山(lex., 3-V-1969, lex., 6-V-1973)。宍粟郡音水(lex., 21-V-1972, lex., 11-VI-1972)。美方郡扇ノ山〔高橋, 1976〕。

11. *Elasmucha putoni* Scott ヒメツノカメムシ

山地に住み、成虫で越冬し5月より活動を始め6月上旬よりヤマグワなどの葉裏に産卵し、雌はその卵上に静止を続けて2令幼虫になるまで保護する習性があると(この保護に関しての記録は次のようなものがある。奥谷, 1949, 後藤, 1953, 小林, 1954)。新成虫は7月中、下旬にあられる。ヤシヤブシ、ノリウツギ、ヒノキの果実などからも吸食すると云われている。

本種の幼虫各令期、卵の図説は小林氏のものがある(1954)。中西氏は六甲山でヤシヤブシ、ヒメヤシヤブシに多産するとされたヒメツノカメムシは学名が*E. scotti* Reuter となっているが本種のことであろうと思われる。

本種は古くKobeからG. Lewis の採集品に基いてDistantが記録している。

県下に広く分布している種である。

産地：Kobe〔Distant, 1883〕, 神戸市六甲山〔中西, 後藤, 1953〕(lex., 15-VII-1956), 谷上(lex., 3-V-1957)。多可郡白山(lex., 3-V-1973), 三谷(3exs., 24-V-1975, lex., 8-VI-1975), 鳥羽(lex., 1-VI-

1975)。神崎郡大河内町川上(lex., 7-V-1977, lex., 14-V-1977, 2 exs., 4-VI-1977, lex., 15-VI-1977, 2 exs., 3-IX-1977)。宍粟郡波賀町原(lex., 11-V-1979), 赤西(4 exs., 27-V-1979), 音水(lex., 3-VI-1973, lex., 11-VIII-1978, lex., 21-V-1979), 坂ノ谷(3 exs., 22-VII-1979)。氷上郡〔山本, 1954, 1958〕。養父郡氷の山〔高橋, 1975〕。

12. *Elasmucha signoreti* Scott セグロヒメツノカメムシ

黄褐色あるいは褐色で黒色の点刻を散布する。前胸背側角は黒色で顕著に突出した先端は光って後側方に向う。

山地のノリウツギの花の上やアセビの果実で多く見られ、♀はウツギ、スグリ類、ヤマグルマに産卵する種であるが兵庫県下では割合少ない。

本種の生態に就いては小林氏の報文がある(1954)。全氏によると年1世代で6、7月頃出現し7月中旬～8月中旬に亘って交尾産卵し、9月下旬～10月上旬に越冬に入るものと考えられている。本種も卵を保護することが報告されている(後藤, 1953, 小林, 1954)。

産地：神崎郡大河内町川上(lex., 23-VII-1977)。宍粟郡坂ノ谷(4 exs., 9-VI-1973, lex., 22-VII-1979)。養父郡氷の山(lex., 27-VII-1956, 2 exs., 15-IX-1973, K. Tsuji leg.)。美方郡扇の山〔高橋, 1975〕。

13. *Dichobothrium nubilum* Dallas アオモンツノカメムシ

ベニモンカメムシに似るがより小形で体上の緑色部が広い。またはねの中央部に濃色の小点がある。4月ごろよりヤツデ、キツタなどのウコギ科の花、実に集る。4月下旬から寄生植物の葉裏に20個近くの卵を産み、6月に新成虫があらわれる。夏はあまり活発に行動せず10月ごろ樹皮下などに入り越冬状態になる。平地から山地まで普通に見られる種である。

三橋信治氏は古く*Elasmostethus scotti* Reuter アオモンツノカメムシとして兵庫を掲げておられる(1915), この種に就いて石原 保博士の説明がある(1947)。本種と同一種と思われる。

産地：洲本市先山、安乎町〔友国, 1973, 堀田, 1975〕。川西市笹部〔仲田, 1978〕。兵庫〔三橋, 1915〕。神戸市谷上(lex., 3-V-1957), 鳥原(lex., 18-V-1975, 4 exs., 25-V-1975, lex., 22-V-1977, 4 exs., 3-V-1979, 3 exs., 5-V-1979, lex., 25-V-1979, lex., 1-VI-1979, lex.,

31-V-1981), 山の街(3exs., 29-V-1976)。宍粟郡坂の谷(1ex., 22-V-II-1979)。氷上郡〔山本, 1954, 1958〕。城崎郡三川山〔高橋, 1975〕。美方郡扇ノ山〔高橋, 1975〕。

以上兵庫県産のツノカメムシ13種の分布を報告した。始めに記した様に個体数の少い種もありまだ調査が不充分だと思われるのでより一層の努力をしたいと考えている。

参 考 文 献

兵庫県関係のものは既に本誌上に発表(2巻, 2号。3巻, 1号。4巻, 1/2号。5巻, 1/2号)したもの以外を掲げた。

1. J. Scott, 1874. Ann. Mag. Nat. Hist., Ser. 4, Vol. XIV: 426-452.
2. Distant, W. L., 1883. Trans. Ent. Soc. London, 1883: 413-443.
3. 江崎悌三, 1915. 昆虫世界, 19(211): 95-100, pl. 6., 19(215): 277-279.
4. 石原 保, 1941. 昆虫界, IX(85): 143-146, pl. 8.
5. 石原 保, 1941. 虫・自然, No. 17: 55-69
6. 奥谷禎一, 1949. 新昆虫, II(4): 39.
7. 江崎悌三, 1950. 日本昆虫図鑑(北隆館)。
8. 小林 尚, 1954. 新昆虫, VII(11): 21-23.
9. 小林 尚, 1954. 四国昆虫学会々報, IV(4): 63-68.
10. 小林 尚, 1958. 四国昆虫学会々報, V(8): 121-132.
11. 小林 尚, 1959. 四国昆虫学会々報, VI(3): 37-47.
12. 長谷川 仁, 1959. 日本昆虫記, VI: 39-72(講談社)。
13. 長谷川 仁, 1960. 長岡市立科学博物館研究報告, No. 1: 19-65.
14. 宮本正一, 1965. 原色 昆虫大図鑑, 第3巻(北隆館)。
15. 川沢哲夫, 川村 満, 1975. 原色図鑑カメムシ百種。全国農村教育協会。
16. 高橋 匡, 1976. 豊岡高等学校昆虫標本目録(第4報)。
17. 日浦 勇, 1977. 原色 日本昆虫図鑑(下巻)(全改訂新版, 保育社)。
18. 仲田元亮, 1978. 能勢の昆虫, I.
19. 宮武頼夫, 日浦 勇, 1979. Nature Study, 25(10): 118.

20. 日浦 勇, 1980. *Rostria*, (32):331-333.

21. 日浦 勇, 1980. *Rostria*, (33):354-358.

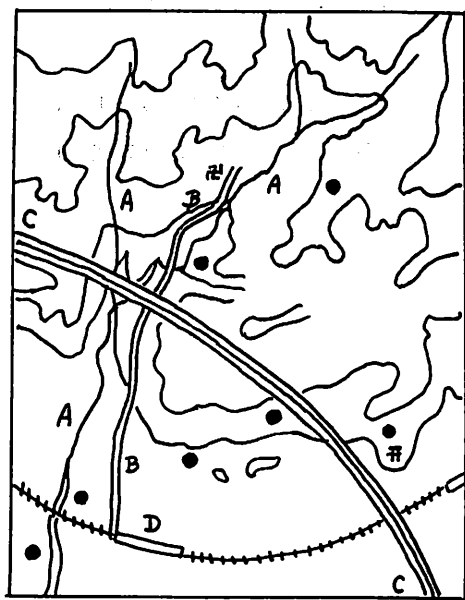
22. 内海功一, 1980. てんとうむし, (6):31.

(15-VII-1981)

宝塚市清荒神のチョウ

加藤 信一郎

このたび高橋寿郎氏のご厚意により、宝塚市清荒神に生息する蝶について報告することになった。
報告に先立って心からお礼申しあげる。



清荒神付近概念図

- 調査地点
- ㊦ 清荒神
- ㊦ めふ神社
- A 荒神川
- B 参道
- C 中国自動車道
- D 阪急清荒神駅

始めて清荒神にすむようになったのは1949年(昭和24年)からで、通算すると約32年になる。その間、最初の8年間は阪急宝塚線清荒神駅の少し南側にいたが、その後線路を越えて参道の途中から東に入った現住所に移って今日に至っている。

記憶とは実にあやふやなもので、かなり古くから集めていたとばかり思い込んでいたが、いざ実際に当たって見たところ、ほぼ継続的に観察・採集を始めたのは漸く、1970年に入ってからで、それ以前の採品はきわめて少ない。それも後々の記録に残しておこうといった計画性など更になく、ただそのころ、久しく休眠していた蝶熱がまた突然再燃して、今日まで細ぼそと続いてきたような次第である。従って誠に貧弱な記録ではあるが、丁度周辺の宅地・道路など開発が本格的に始まりかけた時期と合致するので、その中から、開発の進展と蝶生息の変遷との係わり、ならびに生息する種の消長と特徴などを多少ともべつ見できるのではないかと思う。

清荒神周辺の地理的環境は、西は南北に流れる武庫川を隔てて六甲山系に、北は東西に延びる低山地長尾山系にそれぞれ接する丘陵地と、それから東南に広がる平野部からなる自然環境は、阪神二大都市のベットタウンとして近年とみに開発が進んだが、なお雑木林や田畑がまばらに点在すると共に、

清荒神・売布神社など豊かな森と下生えをもつ社寺が多く、これらによって何とか植生は保たれている（加藤，1980，ちょうちょう，3巻8号）。

因に、宝塚市に生息する蝶相については、奥谷博士が宝塚市史第7巻に詳述されているので参考にされたい。その中でウラキシジミは一部のマニアの間では、清荒神はその多産地として有名とあるが、筆者は残念ながら採集・目撃共がない。

なお、1978年8月、夏休み中の小中学生向けに、周辺の自然環境の保全を願って、「清荒神・売布にいるチョウ」をテーマに、採品の一部を池田銀行めふ支店内に展示した。

清 荒 神 の チ ョ ウ

主な採集場所は、自宅庭およびその周辺、阪急以北の荒神川沿い林縁、畑地、清荒神境内とその周辺などごく狭い範囲で、売布神社境内を含む（附図参照）。

採品は平地から低山地に生息する普通種だが、8科40属52種に達する。上述したように調査範囲が限られているので、清荒神全域の生息種はこれを上回ると推測される。又採品には移動性をもつウラナミシジミ、ツマグロヒョウモン、低山地よりも高地に多いミドリヒョウモン、一度しか採集例のないヒオドシチョウなど、確実に定着しているかどうか疑わしい種が含まれている。

主な特徴としては、ホシミスジ、トラフシジミの多産が挙げられる。前者は本来低山地から山地に生息し、発生は局部的といわれる。しかし奥谷博士も指摘のようにこの辺りの庭木にはシモツケ科のユキヤナギ、コデマリなどの食草が多いことから、平地にまで生息範囲を拡げてきたものと思われる。後者は山地、平地に広く分布するが個体数は少ない。狭い範囲だが、参道脇の林縁にミツバウツギの自生地があり、1975年には特におびただしい発生を見たことがある。また市街地の一部となった現在でも、いわゆるオープンランドの蝶だけでなく生息種の変化に富む点が注目されるが、多分低山地に接するだけではなく、それを結びつける社寺林や民家の庭木、垣根に恵まれているからだと思う。

しかしここ十数年を振り返って見ても様々な変化があった。1、2の事例を挙げると、雑木林のはずれにヤナギが立ち並んでいて、季節になるとコムラサキの蛹がまつわりつき、成虫が飛び交っていた。ところがある日中国自動車道の工事が始まって、ヤナギごと消え去った。また旧家の庭先に茂るエノキの樹上をゴマダラチョウが緩やかに旋回していて、さも当然のように見ていたものだが、それも宅地造成のため切り倒されてゆき、今は滅多に見られない蝶になってしまった。このように今後も開発が進むと、蝶相の変化は一段と加速し、貧相になることが懸念される。またこの間、農薬の普及が蝶など小さい虫の生態系に及ぼした影響も無視できない。もっとも市街地内まで頻繁に使用された一時期に比べると、最近はやや個体数の回復が目につくようになったが、市街化と共に消滅した種は再

び戻ってこない。

種別の記録には筆者の私見を簡単に付記した。また採集者記号のRKは妻玲子、NKは長男暢也、KKは末弟和彦のイニシアル、無記載は筆者の採品で、すべて筆者が所蔵する。

アゲハチョウ科 Papilionidae

1. ジヤコウアゲハ *Byasa alcinous* Klug

1♀, 16-5-1971. 1♂2♀, 29-4-1973. 1♀, 30-4-1974. 2♂, 10-5-1975. 1♂1♀, 30-4-1977. 少ないが今も生息していると思われる。夏型は採集・目撃ともにない。

2. アオスジアゲハ *Graphium sarpedon nipponum* Fruhstorfer

1♀, 19-7-1970. 1♀, 26-7-1970. 5♂, 3-5-1971. 1♂, 16-5-1971. 1♀, 27-6-1971. 1♂, 11-8-1979. 1♀, 14-9-1980. 1♂1♀, 2-8-1981. クロアゲハと共に最も多い。

3. キアゲハ *Papilio machaon hippocrates* C.&F. Felder

1♀, 13-9-1970. 1♀, 12-9-1979. 1♂, 24-8-1980. 1♀, 7-26-1981. 少ないが近年比較的良く見掛けるようになった。春型はまれ。

4. ナミアゲハ *P. xuthus* Linnaeus

2♂, 3-5-1970. 1♀, 18-8-1970. 1♂, 30-8-1970. 1♂, 3-5-1971. 1♀, 16-5-1971. 1♀, 25-7-1971. 1♂, 3-5-1972. 1♀, 2-6-1974. 1♀, 10-5-1975. 1♂, 10-8-1975. 減ったが、まだ普通に見られる。

5. クロアゲハ *P. protenor demetrius* Cramer.

1♂ ab, 29-4-1958. 1♂, 1♀ ab, 10-8-1958. 2♂, 3-5-1970. 1♀, 17-7-1970. 1♀, 26-7-1970. 1♀, 16-5-1971. 1♀, 30-4-1972. 1♀, 2-5-1976. 1♀, 21-5-1978. 1♂, 28-5-1978. 1♀, 15-7-1978. 1♂, 30-4-1979. 1♂, 1-7-1979. 1♀, 23-9-1979. 1♂, 17-8-1980. 2♂, 13-9-1980. 尾状突起の短小化する傾向が見られる。異常型(わい小な1♂と後翅に二重赤斑列をもつ1♀)については、ちょうちょう, 1980, 3巻8号に発表している。

6. モンキアゲハ *P. helenus nicconicolens* Buter

1♀, 9-1955. 1♂, 15-9-1979. きわめて少ないが例年見掛ける。

7. オナガアゲハ *P. macilentus* Janson

1♂, 5-5-1972. その後目撃していない。

8. ナガサキアゲハ *P. memnon thunbergii* von Siebold
1♂, 9-5-1981。当地では初の記録。詳細は本号に併せて発表した。
9. カラスアゲハ *P. bianor dehaanii* C. & R. Felder.
1♂, 8-1955。1♂, 16-8-1970, NK。1♂, 25-7-1971, NK。1♀, 27-7-1975, KK。
1♂, 23-8-1980。少ない。春型は目撃していない。

シロチョウ科 Pieridae

1. モンキチョウ *Colias erate poligraphus* Motshulsky
1♀黄色型, 8-1968。1♂, 20-9-1970。1♀白色型, 26-9-1970。2♂, 10-10-1970。
1♀白色型, 18-10-1970。1♀黄色型, 29-4-1972。1♂, 1♀白色型, 17-6-1972。最近
は目撃していない。
2. ツマグロキチョウ *Eurema laeta bethesba* Janson
1♂, 13-9-1970。2♂, 18-10-1970。1♂, 17-6-1972。1♂, 25-4-1976。少ない。
3. キチョウ *E. hecabe mandarina* de l'Orza
1♂, 5-8-1970。1♂1♀, 8-8-1970。1♂, 4-9-1970。1♂1♀, 5-9-1970。1♂, 1♀,
13-9-1970。1♂, 3♀, 20-9-1970。1♂2♀, 28-3-1971。1♂, 4-4-1971。随所に見ら
れる。
4. スジグロシロチョウ *Pieris melete* Menetries
1♀, 20-8-1970。1♂, 13-9-1970。1♂1♀, 2-4-1971。1♂2♀, 4-4-1971。1♀,
21-4-1971。1♀, 17-6-1972。1♂, 21-5-1978。1♀, 14-10-1979。自宅周辺では次
種より多く、かつ混生する。
5. モンシロチョウ *P. rapae crucivora* Boisduval
2♂, 2-8-1970。1♀, 5-9-1970。1♀, 26-9-1970。2♂, 28-3-1971。3♂1♀, 4-4-
-1971。1♂, 18-3-1972。3月18日が最も早い初見日である。随所に見られる。
6. ツマキチョウ *Anthocharis scolymus* Butler
1♂, 28-3-1971。6♂, 4-4-1971。1♂, 18-4-1981。70年ごろは多かったが、激減した。

シジミチョウ科 Lycaenidae

1. ムラサキシジミ *Narathura japonica* Murray
1♀, 1-9-1971。1♂, 22-10-1972。1♀, 22-7-1972。1♀, 24-9-1972。1♀, 29-
10-1972。1♀, 12-8-1973。1♀, 9-8-1975。1♂1♀, 7-9-1975。1♂, 27-8-1977。

1♀, 14-9-1977. 1♀, 15-10-1977. 2♀, 30-10-1977. 1♀, 8-5-1978. 1♀, 22-7-1978. 1♀, 6-8-1978. 1♀, 9-9-1978. 1♀, 19-10-1978. 1♀, 16-2-1979. 1♂, 7-7-1979. 1♂, 3-9-1979. 1♀, 3-11-1979. 3♀, 8-8-1980. 1♂1♀, 26-7-1981. カシが多いので多産する。特に盛夏から晩秋にかけて多く見られるが♂は少ない。

2. アカシジミ *Japanica lutea* Hewitson

1♂, 22-5-1978, RK. 自宅玄関脇での採品が唯一のもので生息に疑問が残る。

3. ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia* Bremer

1♀, 17-6-1972. 1♀, 15-6-1975. 1♀, 26-7-1981. いずれも自宅の裏手の側溝に沿うまばらな雑木林での採品。消滅寸前と思われる。

4. トラフシジミ *Rapala arata* Bremer

1♀, 16-5-1971. 1♀, 29-4-1972. 2♀, 30-4-1972. 1♂, 29-4-1973. 2♀, 30-4-1974. 1♂1♀, 6-5-1974. 3♂3♀, 26-4-1975. 7♀, 10-5-1975. 1♀, 4-4-1976. 2♀, 6-5-1979. 1♀, 26-4-1981. 1♀, 9-5-1981. 多産するが♂はきわめて少ない。夏型は今まで目撃したことがない。

5. ベニシジミ *Lycaena phlaeas daimio* Seitz

1♂1♀, 27-6-1971. 1♀, 31-7-1977. 1♀, 14-9-1977. 1♀, 10-10-1978. 1♀, 3-9-1979. 1♀, 13-7-1980. 1♂1♀, 18-4-1981. 1♀, 9-8-1981. 比較的少ない。暫らく見なかったが、ここ数年また見掛けるようになった。

6. ゴイシシジミ *Taraka Hamada* Druce

1♀, 18-10-1970, NK. 自宅裏側溝沿いのわい性の竹垣での採品。恐らく消滅したものと思われる。

7. ウラナミシジミ *Lampides boeticus* Linnaeus

1♀, 5-10-1975. 1♂, 1-10-1977. 1♀, 6-10-1979. 近年見掛けるようになったが少ない。いずれも秋の採品で、偶産種と思われる。

8. ヤマトシジミ *Pseudozizeeria maha argia* Ménetriers

1♂, 30-5-1971. 1♀, 13-6-1971. 1♂, 26-6-1971. 1♂, 27-6-1971. 1♂, 9-7-1972. 1♂, 28-8-1972. 1♀, 3-9-1972. 1♀, 17-9-1972. 1♂2♀, 29-7-1973. 1♂, 22-7-1977. 1♀, 15-9-1979. 路傍の随所にごく普通に見られる。

9. ルリシジミ *Calastрина argiolus ledonides* de l'Orza

1♂, 31-5-1972. 2♀, 17-6-1972. 1♂1♀, 17-9-1972. 1♀, 24-9-1972. 1♂1♀, 22-7-1973. 1♀, 24-8-1975. 1♂1♀, 4-4-1976. 1♀, 12-6-1976. 1♀, 3-7-1980.

比較的多く自宅庭にもよく飛来する。

10. ツバメシジミ *Everes argiades hellotia* Ménétriès

1♂1♀, 3-5-1971. 1♂1♀, 26-6-1971. 1♂, 27-6-1971. 1♂, 26-4-1975. 1♀, 2-8-1981. 1♀, 15-8-1981. 1♂, 18-8-1981. ルリシジミより少ない。

11. ウラギンシジミ *Curetis acuta paracuta* de Niceville

1♀, 23-8-1970. 1♂, 30-8-1970. 1♀, 13-9-1970. 1♀, 18-10-1970. 1♀, 12-9-1971. 1♂, 14-9-1972. 1♀, 17-9-1972. 1♂, 24-9-1972. 1♂2♀, 22-10-1972. 1♀, 28-10-1972. 1♂, 19-7-1975. 1♀, 2-8-1975. 1♂1♀, 14-9-1977. 1♂, 23-7-1978. 1♀, 20-8-1978. 1♂, 19-8-1979. 1♀, 13-10-1979. 2♂, 26-7-1981. 多産する。採品の1♂(14-9-1972), 1♀(28-10-1972)は前翅長14mm, 16mm, わい小な型である。

テングチョウ科 *Libytheidae*

1. テングチョウ *Libythea celtis celtoides* Fruhstorfer

1♀, 10-5-1975. 1♀, 25-4-1976. 1♀, 8-5-1978. 1♀, 6-5-1979. 1♀, 18-4-1981. 採品は凡て越冬個体で新たな発生個体は目撃していない。

マダラチョウ科 *Danaidae*

1. アサギマダラ *Parantica sita nipponica* Moore

1♂, 9-1956. 旧自宅庭での古い採品のみで, 最近は全く見掛けない。

タテハチョウ科 *Nymphalidae*

1. ミドリヒョウモン *Argynnis paphia geisha* Hemming

1♀, 10-10-1970. 1♂, 16-7-71. 採品以外は全然目撃しない。偶然種と思われる。

2. ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius* Linnaeus

1♂, 6-1956. 1♀, 21-8-1976, NK. 前者は旧自宅庭後者は自宅庭の採品、偶然種と思われる。

3. アサマイチモンジ *Ladoga glorifica* Fruhstorfer

1♂, 20-7-1975. 次種と共に少ない。

4. イチモンジチョウ *L.camillia japonica* Ménétriès

1♂, 17-8-1970. 1♀, 26-7-1981.

5. コミスジ *Neptis sappho intermedia* W.B.Pryer

1♀, 2-8-1970. 1♂1♀, 16-5-1971. 1♀, 26-7-1981. 1♀, 15-8-1981. 次種と混生するが、それより少ない。

6. ホシミスジ *N. pryeri* Butler

1♀, 2-8-1970. 1♂, 30-5-1971. 1♂1♀, 9-6-1971. 1♀, 26-6-1971. 1♂, 27-6-1971. 1♀, 4-7-1971. 1♂1♀, 10-7-1971. 1♂, 24-6-1974. 1♀, 17-6-1978. 1♀, 13-9-1978. 1♀, 17-6-1979. 1♂, 11-8-1979. 1♂, 19-8-1979. 1♀, 22-9-1979. 1♀, 24-8-1980. 1♂, 30-5-1981. 多産する。

7. キタテハ *Polygonia caerulea* Linnaeus

1♂, 23-7-1970. 1♀, 26-7-1970. 1♂, 2-8-1970. 1♀, 17-8-1970. 1♂, 28-8-1971. 1♂, 4-4-1971. 1♀, 11-7-1971. 1♂, 14-9-1977. 1♀, 18-9-1977. 近年減少傾向が目立つ。

8. ヒオドシチョウ *Nymphalis xanthomelas japonica* Stichel

2♂, 6-1969. 自宅庭での採品。偶産種と思われる。

9. ルリタテハ *Kaniska canace no-japonicum* von Siebold

1♀, 23-8-1970. 1♀, 24-8-1970. 2♂, 30-8-1970. 1♀, 13-9-1970. 1♂, 23-11-1973. 1♀, 26-8-1979. 1♂, 9-9-1979. 1♀, 23-8-1980. 例年秋から比較的良く見られる。

10. アカタテハ *Vanessa indica* Herbst

1♀, 8-1969. 1♂1♀, 27-8-1970. 1♀, 30-10-1979. 少ない。

11. コムラサキ *Apatura ilia substituta* Butler

1♂1♀, 16-8-1970. 1♀, 17-8-1970. 2♀, 23-8-1970. 1♂, 25-5-1978, RK. 1♂, 5-8-1979. 1♀, 6-9-1980. 激減したが例年自宅庭に飛来する。

12. ゴマダラチョウ *Hestina japonica* C.&R.Felder

1♂2♀, 2-8-1970. 1♀, 22-8-1970. 1♂, 21-5-1971, RK. 1♂, 17-9-1977. 1♂, 26-5-1979. 激減したが、生息は続けている。

ジャノメチョウ科 Satyridae

1. ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus* Butler

2♂, 29-4-1972. 1♂, 15-7-1972. 1♂, 5-5-1981. 2♂2♀, 30-5-1981. 最も普通

に見られる。

2. ジャノメチョウ *Minois dryas bipunctatus* Motschulsky

1♀, 26-7-1970。1♂, 4-7-1971。1♂, 1-8-1981。現在も清荒神寺林縁に生息する。

3. クロヒカゲ *Lethe diana* Butler

1♂, 2-10-1977。それほど多くはない。

4. ヒカゲチョウ *L. sicelis* Hewitson

1♂, 9-9-1975。1♂, 10-6-1979。1♂, 15-9-1979。クロヒカゲと共生する。

5. サトキマダラヒカゲ *Neope goschkevitschii* Méne'triès

1♂, 26-7-1970。1970年ごろには自宅横のササの茂みに毎年発生していたが、結実して枯れてからは全く見ない。消滅したものと思われる。

6. ヒメジャノメ *Mycalesis gotama fulginia* Fruhstorfer

1♀, 2-8-1970。1♂, 5-9-1970。1♀, 20-9-1970。1♀, 23-9-1979。1♀, 18-8-1981。次種より少ない。

7. コジャノメ *M. francisca perdicas* Hewitson

1♂, 24-7-1970。2♂, 16-5-1972。1♀, 10-5-1975。1♂, 2-5-1976。1♀, 5-5-1979。1♂1♀, 5-4-1981。1♂1♀, 30-5-1981。1♀, 1-8-1981。1♂, 9-8-1981。

セセリチョウ科 *Hesperiidae*

1. ダイミョウセセリ *Daimio tethys* Méne'triès

1♂, 17-7-1972。採品の後は目撃していない。

2. キマダラセセリ *Potenthus flavum* Murray

2♀, 21-6-1971。1♂, 3-9-1972。1♀, 17-9-1972。1♂, 24-9-1972。1♂, 20-8-1978。1♀, 9-9-1979。第2化の発生個体を見かけることが多い。

3. ホソバセセリ *Isoteinon lamprospilus* C.&R.Felder

1♂, 16-7-1972。1♂, 14-7-1974。1♂, 12-7-1979。少ない種と思われる。

4. チャバネセセリ *Pelopidas mathias oberthueri* Evans

1♂, 10-11-1973。1♀, 10-10-1978。1♂, 23-9-1979。1♂, 10-10-1979。1♂, 20-10-1979。次種に比べてはるかに少ない。

5. イチモンジセセリ *Parnara guttata* Bremer & Grey

2♀, 27-8-1972。1♂1♀, 8-9-1979。例年秋口から晩秋にかけて多発する。

宝塚市清荒神でナガサキアゲハの 春型 1♂ を採集

加 藤 信 一 郎

清荒神に生息する蝶目録を整備するため、今年は春先から自宅周辺で観察・採集していたところ、5月9日(土)、昼前、ナガサキアゲハを採集したので報告する。当日の天候は快晴であった。

採集場所は自宅のすぐ裏の側溝沿いの小道で、この辺りは狭い範囲だが、まだカシ、ナラ、クヌギなどの雑木がまばらに残っていて、アゲハなどの蝶道になっており、小道に隣接する民家の庭には、夏ミカン、ダイダイ、キンカンなどが散見される。目撃した瞬間青色鱗が目に入り、一見カラスアゲハに見えたが、「ひょっとしたら」という予感が働いて、すくって見ると果してナガサキアゲハであった。

採品は春型の1♂で異常個体である。左翅は前翅長65mmで正常だが、右翅は前翅長約47mm、中室外方から翅頂にかけて発育不全で伸び切らず、又その部分は鱗粉を散布しない。サイズはやや小振りで前翅基部に赤斑を欠くが、翅表裏の地色・斑紋は宮崎、大分産春型と比べて差異は見られない。

宝塚市では1955年8月23日にファミリーランドで1♀の採集記録があるのみで(日浦, 1977, Nature Study 23巻12号)、実に26年振りの記録となる。東進を続けている本種の兵庫県東部・大阪府における今までの記録は凡て夏型であり、春型は1977年5月6日に堺市で採集された1♀に止まる(日浦, 1977, Nature Study 23巻12号)。

ところが今年に入って日浦氏の手元にも大阪府下能勢の初谷などで採集された報告が寄せられている。これらの記録から見て、昨冬のきびしい寒さにも拘らず蛹化状態で越冬したものと推測され、宝塚市とこれに隣接する地域での定着化の可能性は大きく、今後の調査が期待される。

ミドリヒョウモン雌暗灰緑色型 の採集例

松 本 健 嗣

1954-V1-25 神戸市長田区一里山町

筆者採集、同定者 日浦 勇

中国山脈にしばしば現われると云う型で、採集地は草原+低瀬木林であり、本種はごく少い。新鮮

な個体なので附近で羽化したものと思われる。同地には当時ヒメヒカゲが多産していた。他に神戸でとれたこの型の標本としては以前夏期作品展で1963-IX-15 垂水区壺谷町、大谷 泉（当時壺谷中学生徒）採集のものをしている。

(7-VIII-1981)

宝塚大橋の照明燈で採集した蛾(その2)

新 家 勝

今回は、ヤガ科について報告する。

Noctuidae ヤ ガ 科

- | | |
|-----------------------------------|---------|
| 1. <i>Trichosea champa</i> | キバラケンモン |
| 1978. 11. 11 武庫川町 | |
| 2. <i>Daseochaeta viridis</i> | ミドリケンモン |
| 1978. 11. 11 武庫川町 | |
| 3. <i>Apatele rumicis oriens</i> | ナシケンモン |
| 1979. 6. 21 南口2丁目 | |
| 4. <i>Apatele incretata</i> | リンゴケンモン |
| 1978. 10. 11 南口2丁目 | |
| 5. <i>Apatele major</i> | オオケンモン |
| 1979. 9. 12 南口2丁目 | |
| 6. <i>Apatele strigosa adacta</i> | サクラケンモン |
| 1979. 5. 21 南口2丁目 | |
| 7. <i>Peridroma saucia</i> | ニセタマナヤガ |
| 1980. 11. 9 南口2丁目 | |
| 8. <i>Agrotis fucosa</i> | カブラヤガ |
| 1979. 8. 31 武庫川町 | |
| 9. <i>Hermonassa cecilia</i> | クロクモヤガ |
| 1978. 10. 15 南口2丁目 | |
| 10. <i>Sineugraphe exusta</i> | カバスジャガ |
| 1979. 6. 30 南口2丁目 | |

- | | |
|-------------------------------------|--------------|
| 11. <i>Diarsia canescens</i> | オオバコヤガ |
| 1979. 5. 21 南口2丁目 | |
| 12. <i>Diarsia pacifica</i> | アカフヤガ |
| 1979. 9. 7 武庫川町 | |
| 13. <i>Amathes c-nigrum</i> | シロモンヤガ |
| 1979. 5. 22 武庫川町 | |
| 14. <i>Mamestra brassicae</i> | ヨトウガ |
| 1978. 10. 15 南口2丁目 | |
| 15. <i>Leucania separata</i> | アワヨトウ |
| 1979. 10. 3 武庫川町 | |
| 16. <i>Leucania insecuta</i> | スジシロキヨトウ |
| 1979. 5. 22 武庫川町 | |
| 17. <i>Meliana compta</i> | アトジロキヨトウ |
| 1979. 10. 3 武庫川町 | |
| 18. | ヤマトホソヤガ |
| 1979. 12. 5 武庫川町 | |
| 19. <i>Xycelena formosa</i> | キバラモクメキリガ |
| 1979. 12. 4 武庫川町 | |
| 20. <i>Rhizedra lutosa griseata</i> | ヨシヨトウ |
| 1978. 10. 15 武庫川町 | |
| 21. <i>Sesamia inferens</i> | イネヨトウ |
| 1979. 5. 31 武庫川町 | |
| 22. <i>Trachea atriplicis gnoma</i> | シロスジアオヨトウ |
| 1979. 5. 22 南口2丁目 | |
| 23. <i>Chytonix segregata</i> | チャオピヨトウ |
| 1979. 9. 9 武庫川町 | |
| 24. <i>Amphipyra erebina</i> | オオウスツマカラスヨトウ |
| 1979. 7. 20 武庫川町 | |
| 25. <i>Amphipyra pyramidea</i> | シマカラスヨトウ |
| 1978. 10. 2 南口2丁目 | |
| 26. <i>Orthogonia sera</i> | ノコメセダカヨトウ |

1979. 7. 5	武庫川町	
27.	<i>Prodenia litura</i>	ハスモンヨトウ
1978. 10. 17	南口2丁目	
28.	<i>Dadica lineosa</i>	シロテンウスグロヨトウ
1979. 9. 5	南口2丁目	
29.	<i>Athetis dissimilis</i>	テンウスイロヨトウ
1979. 5. 22	武庫川町	
30.	<i>Nonagria turpis</i>	テンオビヨトウ
1979. 5. 22	南口2丁目	
31.	<i>Rusidrina depravata</i>	スジキリヨトウ
1979. 5. 28	南口2丁目	
32.	<i>Eutelia geyeri</i>	フサヤガ
1978. 10. 23	武庫川町	
33.	<i>Blenina senex</i>	キノカワガ
1978. 10. 26	南口2丁目	
34.	<i>Plusia purissima</i>	ギンモンシロウワバ
1979. 10. 3	武庫川町	
35.	<i>Plusia albostriata</i>	エゾギクキンウワバ
1979. 11. 6	武庫川町	
36.	<i>Plusia agnata</i>	ミツモンキンウワバ
1979. 11. 3	南口2丁目	
37.	<i>Plusia tarassota</i>	ニシキンウワバ
1979. 9. 28	武庫川町	
38.	<i>Plusia peponis</i>	ウリキンウワバ
1978. 10. 15	南口2丁目	
39.	<i>Plusia intermixta</i>	キクキンウワバ
1978. 11. 9	南口2丁目	
40.	<i>Plusia festata</i>	イネキンウワバ
1979. 5. 21	南口2丁目	
41.	<i>Plusia rutilifrons</i>	ギンスジキンウワバ
1978. 11. 6	南口2丁目	

- | | |
|--|-------------|
| 42. <i>Speiredonia retorta</i> | オスグロトモエ |
| 1980. 8. 20 武庫川町 | |
| 43. <i>Adris tyrannus amurensis</i> | アケビコノハ |
| 1979. 11. 14 南口2丁目 | |
| 44. <i>Dermaleipa juno</i> | ムクゲコノハ |
| 1979. 9. 21 武庫川町 | |
| 45. <i>Dinumma deponens</i> | ウスヅマクチバ |
| 1979. 5. 11. 武庫川町 | |
| 46. <i>Oraesia excavata</i> | アカエグリバ |
| 1978. 10. 18 南口2丁目 | |
| 47. <i>Anomis mesogona</i> | アカキリバ |
| 1979. 10. 29 武庫川町 | |
| 48. <i>Arcte coerulea</i> | フクラスズメ |
| 1979. 10. 21 南口2丁目 | |
| 49. <i>Sypna lucilla</i> | オオシラフクチバ |
| 1978. 10. 21 南口2丁目 | |
| 50. <i>Sypna punctosa</i> | オオシロテンクチバ |
| 1979. 10. 3 武庫川町 | |
| 51. <i>Lacera alope</i> | ルリモンクチバ |
| 1980. 11. 14 南口2丁目 | |
| 52. <i>Simplicia nippona</i> | オオアカマエアツバ |
| 1978. 10. 15 南口2丁目 | |
| 53. <i>Leucania loreyi</i> | クサシロキヨトウ |
| 1979. 8. 29 南口2丁目 | |
| 54. <i>Callopistria juvenina obscura</i> | ムラサキツマキリヨトウ |
| 1980. 6. 13 南口2丁目 | |
| 55. <i>Agrotis epsilon</i> | タマナヤガ |
| 1979. 8. 31 武庫川町 | |

神戸市山田町の蛾数種

松本健嗣

北区山田町に於いて筆者が採集した蛾については、以前本誌第4巻1・2号(1975)にNotodontidaeを、藍那地区自然環境調査(兵庫県自然保護協会鈴蘭支部1979)にNoctuidae, Aegeriidae及びAdelidaeを報告したが、他に目に付いたもの若干を述べると

1) *Epiricania hagoromo* Kato ハゴロモヤドリガ

1973年9月3日 1♂昼間。

1974年8月28日 幼虫1ex. 採集、8月30日夕刻造繭、9月7日羽化(♀)。

1974年9月14日 幼虫1ex. 採集、9月17日夜造繭、9月28日羽化(♀)。

1974年9月18日 幼虫1ex. 採集、9月18日夜造繭、10月1日羽化(♀)。

1978年8月4日 幼虫1ex. 採集、4日後に死亡。

他垂水区名谷町でも採集しているが器内で羽化したものはメスばかりであった。

上記の寄主はいずれもベッコウハゴロモ(*Ricania japonica*)で、これはどこにでもいる普通種だが、この蛾の寄生を受けたものは湿潤な谷間のような場所に多く見出される。翅長は4—6.5 mmと個体差がかなり著しい。上記の採集例は字原野山の街、藍那でのものである。

2) *Cataprosopus monstrosus* Butler マエグロノメイガ

1973年7月25日 2♀♀ 山ノ街夜間

3) *Peridea aliena* Staudinger ニトベシヤチホコ

1973年8月7日 1♂ 山ノ街夜間

4) *Dasychira nachiensis* Marumo ナチシタキドクガ

1973年8月6日 1♀ 山ノ街夜間

5) *Nyctemera plagifera* Walker モンシロモドキ

1971年7月15日 1♀, 他1ex. 目撃、山ノ街昼間

1972年8月 1日 1ex. 目撃山ノ街昼間

1973年8月 7日 翅を拾う。北甲栄台町

1977年9月15日 1♀ 神戸電鉄山ノ街駅前昼間卵を産んだのでキク科Aster属の一種で飼養したが11月迄に全部死亡。当地では定着できず、ほぼ連年南方より飛来するものらしい。

6) *Poecillocampa populi tamanukii* Matsumura ウズミカレハ

1974年12月14日夜藍那で2♀♀1♀採集、器内で交尾産卵(約30個)、1975年4月14日全部ふ化、5月18日1ex. 造繭(他は皆死亡)、11月30日羽化(♂)、これはコナラで

飼育したもの。

兵庫県内では山間広葉樹林に広く分布していると思われるが、成虫出現期が遅く、且つ短かく、特にメスは成育場所から至近距離にある灯火にしか飛来しないため採集し難いものである。本種の食餌植物としてはこれ迄に針葉樹を含む多くの木本植物が知られているが、卵越冬種の特徴として、ふ化後間もない幼虫は好んで新芽を食う習性が著しく、以前、冬芽の未だ固いヤマナラシの小枝を与えたところただちに芽内に食入し、出て来て間もなく脱皮し第2令となった。筆者は未だ野外で幼虫を得たことはないが、当地山田町では、状況から推定して、食樹はコナラ（群生地に限る）と見るのが妥当だろう。

参考文献

- 2). 3). 東 正雄 京阪神の動物（六月社1965）
5） 富士原 芳久 新昆虫1956年9月号（北隆館）

（7-VIII-1981）

男鹿島のクロシオキシタバ

松 本 健 嗣

クロシオキシタバ (*Catocala kuangtungensis* Mell) は1960年代にはたいへん珍らしがられた蛾であるが、今では東海以西のウバメガシ林には大抵いることが知られている。筆者が家島町男鹿島で本種を初めて採集したのは1967年7月23日であったが、のち1969年3月の山火事により島の山林の大半が焼失し本種も姿を消していたが、その後島の植生は徐々に復元し、本年（1981）7月24日に訪れた際本種2exs.を目撃した。なお盛夏時には樹液を求めて海を渡り 姫路方面（或いは小豆島）へ移動するものらしい。

西宮市角石町で採集した蛾類数種の記録

芦 田 久

東六甲の山麓にある甲陽高校（西宮市角石町3-138）に通うようになって通学途中や学校内で多数の昆虫を得ることができた。蛾類は校舎3階の窓を1つ開け20Wブラックライトを2本取りつけ、

翌朝に回収するという方法で採集した。六甲山系では正式に記録されていないと思われる次の種類を報告する。なお蛾類の採集に関して色々と便宜を計って下さった中村泰三先生に感謝したい。

1. コエビガラスズメ *Sphinx ligustri constricta* Butler

1 ex, 9. V. 1981 佐藤 学氏採集

1 ex, 3. VII. 1981 筆者採集

(1)
有馬では記録がある〔東 正雄(1965)〕が表六甲からは初めてであろう。

2. ホリバスズメ *Cxyambulyx ochracea* Butler

1 ex, 28. VII. 1981. 筆者採集

福定や大山では多いが、当地では稀なようで上記の一例のみである。

3. コウチスズメ *Smerinthus tokyonis* Matsumura

1 ex, 27. VI. 1981. 佐藤氏採集

(2)
本種も神戸市布引で 1 ex, 10. VIII. 1976 本吉 要氏採集の記録があるが、掲載誌が発行部数の少ない内輪の雑誌であるため殆んど知られていないと思われるので報告する。

4. オナガミズアオ *Actias selene gnoma* Butler

1 ex, 20. VI. 1980. 筆者採集 ほか多数、不思議なことに当地では本種が多産し、一般的に普通であるオオミズアオは稀である。♂交尾器によって確認した。

5. ヒロヘリアオイラガ *Parasa lepida lepida* Cramer

(3)
1♂, 5. VII. 1980. 筆者採集 ほか多数、本種は佐々木(1979)により大阪府での産が報告されたものが、本洲初記録であるが、その後、阪神地方一帯に分布を広げているようで、当地でも採集することができた。筆者らは他に西宮市甲子園口、尼崎市武庫ノ荘で本種を採集している。

6. ウスベニキリガ *Orthosia cedermarki* Bryk

2 exs, 10. V. 1980. 西山博之採集

(4)
2 exs, 15. V. 1981. 西山・佐藤両氏採集、遊磨(1973)のリストに載っていないようなので報告する。燈火に來た。

7. ウスムラカキクチバ *Ericcia fraterna* Moore

3 exs, 10. V. 1980. 西山氏・筆者採集

本種も遊磨(1973)のリストにないので報告する。

参考文献)

- (1) 東 正雄 京阪神の動物: 25, 1965
- (2) 本吉要 甲陽生物, 7: 49, 1977
- (3) 佐々木昇 月刊むし, 103: 39, 1979
- (4) 遊磨正秀 きべりはむし, 2(1): 1-9, 1973

ニトベシヤチホコを養父郡関宮町福定で採集

芦 田 久

兵庫県のシャチホコガ科の記録は、遠山・遊磨⁽¹⁾・松本(1975)及び、遊磨⁽²⁾(1980)にまとめられているが、ニトベシヤチホコは未記録のようなのでここに記録する。

ニトベシヤチホコ *Peridea aliena* Staudinger

1 ex, 4. VIII. 1979. 筆者採集

福定のバス待合所の蛍光灯に飛来した。なお福定では他に8種の当地未記録種を得ているので合わせて報告する。

ヒメシヤチホコ *Stauropus basalis* Moore

1 ex, 1. VIII. 1979. 筆者採集

アオシヤチホコ *Quadricalcarifera cyanea* Leech

1 ex, 4. VIII. 1979. 筆者採集

ムラサキシヤチホコ *Uropyia meticulodina* Oberthür

1 ex, 4. VIII. 1979. 佐藤学氏採集

オオモクシャチホコ *Cerura erminea menciiana* Moore

1 ex, 1. VIII. 1979. 筆者採集

トビギンボシシャチホコ *Eguria ornata* Oberthur¹¹

1 ex, 1. VIII. 1979. 筆者採集

ギンモンズメモドキ *Tarsolepis japonica* Wileman et South

1 ex, 1. VIII. 1979. 筆者採集

ツマキシヤチホコ *Phalera assimilis* Bremer

2 exs, 1. VIII. 1979. 佐藤氏採集

当地では8月1日～4日の間採集することができたが、シャチホコガ科が比較的豊富で合わせて25種を得ることができた。末筆ながら標本をいただいた佐藤 学氏に感謝したい。

参考文献)

(1) きべりはむし 4 (1/2): 26-37

(2) きべりはなし 8 (1): 12-13

神戸では少い昆虫3種の採集例

松 本 健 嗣

オオツノトンボ *Protidricerus japonicus* MacLachlan

1965-IX-3 1♀ 北区山田町上谷上六甲山地獄谷

兵庫県西北部にはかなり多いが六甲、北摂山地では少いものである。

ラクダムシ *Inocellia crassicornis* Schummel

1967-V-28 1♂ 垂水区押部谷町福住

1978-V-21 1♀ 長田区花山町

ヒナカマキリ *Iridopteryx maculata* Shiraki

a) 1976-Ⅺ-8 1♀ 長田区一里町皿ヶ池畔 採集後間もなく産卵

b) 1978-Ⅺ-9 1♀ 北区山田町藍那 既に産卵済みの個体であった。

常緑樹林内に棲む種と云われるがa)の採集地は闊木林地帯で附近に広葉喬木林はない。私は有馬でも見ており(1959-Ⅸ-4)、やゝ古く垂水区下畑での記録(竹中真一 1933-Ⅸ-7。昆虫界 Vol. Ⅲ, Ⅻ13, 1935)もある。

(7・Ⅷ・1981)

宝塚市内におけるフタモンウ バタマコメツキの採集記録

新 家 勝

「きべりはむし、第9巻、第1号」を拝見し、フタモンウバタコメツキの県下での分布は余り知られていないことがわかったので、宝塚市内における小生の採集記録を報告させていただく。

例1. 採集年月日 1978. 9. 22

採集場所 宝塚市宝松苑

採集時の状況 建物の外燈に飛来し、天井と側壁の会合部に体を潜ませているのを発見した。
ウバタマコメツキに見えたが、体が細目であったので、持ち帰り同定したところフタモンウバタマコメツキであった。

標本 筆者が所蔵している。

例2. 採集年月日 1981. 6. 8

採集場所 宝塚市武庫川町、宝塚大橋燈火。

採集時の状況 宝塚大橋の照明燈に集まる蛾類の採集中、歩道を歩行しているのを発見し、採集した。今回の採集場所は、例1の採集場所からほぼ見通し距離にある。山林の多い例1の採集地から飛来したものかどうかはわからないが、宝塚市のこの付近ではかなり採集できるのではないかと思う。

標本 高橋寿郎氏に寄贈した。

追記、6月11日(1981)にも再び宝塚大橋燈火に飛来したのを採集した。

○ 兵庫県におけるコバヤハズカミキリの分布

コバヤハズカミキリ類 (*Parechthistatus*, *Mesechthistatus*) は後翅が退化萎縮して全く飛翔ができず移動能力の制限をうけることから隔離によって起る分化の問題を考える上により材料として色々検討され有益な論文が発表されている。兵庫県下には僅か2種が分布していることが知られているだけであったが最近1新亜種の記載もあり、また従来知られていた2種の内の1種の分布は大変疑わしい点もあったりする。今迄の記録の検討とあわせて現時点での分布を眺めて見たいと思う。

Mesechthistatus furciferus Bates, 1884 マヤサンコバヤハズカミキリ

Echthistatus furciferus として Bates が 1884 年記載している (Journ. Linn. Soc. London Zool. XV, p. 237)。原記載は Hiogo on Maigasan となっている勿論摩耶山のことである。*E. gibber* (Bates) に似るとあり、♂で記載されている。このタイプ標本の写真は大林氏によって紹介されている (1961)。松下博士が *gibber* を本種と同定したことから間違っ取扱われていた時期がある。ところが原記載が神戸産でされている本種がはたして現在兵庫県下に分布しているのかどうかという事になると大変疑問に思っている。しかしながらこの学名でもって県下に記録されているのが相当ある。それ等の標本を一つ見られないので何んとも云えないが一応記録だけを拾って見ることにする。

神戸市摩耶山、六甲山。関氏によって 1935, 1941 年に記録されている。共に属名は *Echthistatus* を使用始めの報文には和名がついてないが後の報文にはクロコバヤハズカミキリの和名がついている。共に *gibber* の方も同時に記録しているのでそれぞれ違った種として認めた上で記録してあると思われるが後の報文で *gibber* にマヤサンコバヤハズカミキリ (新称) として与えている従ってこれ等2種の分類が現在の取扱と全じであるかどうかは一寸疑問である。

氷上郡篠ヶ峯, 1 ex., 23-VII-1959, 青垣町小倉, 1 ex., 5-VIII-1960 は山本、高橋両氏によってヒメコバヤハズカミキリ (属名 *Parechthistatus*) として報告されている (1961, 1962)。篠ヶ峯産のものは林博士同定となっている。

城崎郡三川山, 1 ex., 18-VI-1973, 高橋 匡氏の報告であり学名もこのまゝであるし和名もマヤサンコバヤハズカミキリとなっている。

美方郡扇ノ山は多田、辻氏の報文 (1960, 属名 *Parechthistatus*, ヒメコバヤハズカミキ

り)、辻氏(1961, *Mesochthistatus meridionalis* Hayashi ミヤマコブヤハズカミキリとして記録)。辻、岸田氏の報文(1972, 種名のみ)、さらに辻氏は写真でもって扇ノ山産(1♂, 18-VII-1961)を紹介しておられる(1972)。

筆者が氷の山から *M. furciferus meridionalis* Hayashi ミヤマコブヤハズカミキリとして報告したものは(1964) いづれも同定間違で後述のダイセンコブヤハズカミキリに当ると思われるので取消しておく。

以上が本種についての兵庫県下からの記録の総てである。始めに記した様に標本を全く見られないので何んとも云えないが。現在の知見で本種であると言う兵庫県産の標本は残念ながら見たこともないし、採集の経験もない。

Parechthistatus gibber gibber (Bates, 1873) ヒメコブヤハズカミキリ

Batesにより1873年 *Echthistatus gibber* として Maiyasan and Kawatchi, in September. ♂♀ で記載されている。原記載に使用されたタイプ標本の写真は大林氏により紹介されている(1961)。大林氏によると林博士が1955年の原色昆虫図鑑, 上, 甲虫編に図示された、*P. furciferus* (p. 55, pl. 20, f. 255) がこの種に該当するとある。従ってこの図鑑で同定した *P. furciferus* は本種になるので前に紹介した県下から *P. furciferus* の名で記録されている種は本種になる恐れがあると考えられる。

では一応兵庫県下から記録されている地点を全部拾って見る。

洲本市先山からは水沼氏が1♀を写真をつけて記録しておられる(3-V-1969, 水沼, 1970)。写真から見て基本型である。同じ地点では金田氏(1978)の記録があり、鮎屋からも記録がある(登日, 1979)。川西市横地(仲田, 1978)。神戸市六甲山(1♀, 25-V-1960, 筆者採集。この標本は三宅氏によって図示されている。標本も三宅氏保管, 1980)。武田氏は六甲山の標本を図示されているがデータが無い(1978), 摩耶山(1♀, 27-V-1953, 筆者採集。この標本も三宅氏の所に保管されていて、同氏によって図示されている, 1980)。

神崎郡大河内町川上〔1♀, 22-VI-1976, K. Kuramoto leg., 2♂♂, 3♀♀, 22-VI-1976, K. Fujiwara leg.〕。この記録は倉本氏より私信で教えて頂いたもので標本が見られないので基本型なのかダイセンコブヤハズカミキリに属するものなのかかわからない。

相生市三濃山(1♀, 8-VI-1974)。

以下にのべる産地のものが基本型なのかダイセンコブヤハズカミキリに入るべきものなのか標本が見られないので何んとも云いがたいが一応産地を記しておく。筆者の所有している宍粟郡音水、坂の谷、養父郡氷の山産のものはダイセンコブヤハズカミキリに該当すると思われるのでその産地からし

て以下の種はその大部分がダイセンコブヤハズカミキリになるのではないかと考えられる。

多紀郡篠山町小金岳、丹南町竜蔵寺(辻, 1964)。氷上郡神楽(山本, 1958)。出石郡伊東町小谷(高橋, 1963)(但しこの種は *Mesechthistatus binodosus* Waterhouse コブヤハズカミキリとして記録されている)。宍粟郡赤西、音水(黒田, 1972)。養父郡氷の山(辻, 1962, 遊磨, 1972)。美方郡扇の山(奥谷, 1954)。

Parechthistatus gibber daisen Miyake et Tsuji, 1980

ダイセンコブヤハズカミキリ

本亜種は1980年に伯耆大山、美方郡扇の山、養父郡氷の山、多紀郡篠山産をタイプにして命名されたものである。小島、林西博士が図説(1969)された氷の山産♂(Ⅶ-1957)もこの亜種になる。

筆者が所有している次の標本はやはりこの亜種になると思われる。

宍粟郡音水(1♂, 24-Ⅶ-1973, 1♀, 10-Ⅷ-1975), 坂の谷(1♀, 9-Ⅶ-1973, 1♂, 22-Ⅶ-1979)。養父郡氷の山(1♂, 12-Ⅶ-1954, 2♀♀, 25-Ⅶ-1955)。岡氏が図示された 宍粟郡音水産1♀(24-V-1976)もこの亜種と思われる(1977)。

多紀郡に在るのも本亜種であるから神崎郡の産のものはこの亜種に入るのではないだろうか、たゞ相生市三濃山の1♀は明らかに基本型に入ると思われる。

兵庫県下にこの両亜種がどの様に分布しているか充分な標本が手許になくまた今迄の記録の標本が見られない現在のはっきりとはしないが海岸線ぞいに基本型がいて中央部から北にこの亜種が分布しているように思われる。

○ ヒラタハネカクシ神戸市内で採集

1981年4月8日、春まだ浅き市内烏原貯水池畔で樹皮を剥がして虫を探して見た所ヒラタハネカクシ *Siagonium vittatum* Fauvel を 1 匹見出した。特徴のある平べったくて上翅の両側に赤褐色の縦帯があり、頭は前部中央に1対の水平で八字状に前向きの角状突起があるので間違いないと思われる。調べて見たら兵庫県下からの記録が見当たらない。こんな所に在るのにやはり不注意だったと考えさせられた。この属のハネカクシは他にホソヒラタハネカクシ *S. gracile*、宍粟郡音水(1 匹, 21-V-1972, Y. Hayashi det.) が県下から知られているだけである。またやゝ似ているオオヒラタハネカクシ *Piestoneus lewisi* Sharp の方は養父郡氷の山、宍粟郡音水の記録があるし筆者自身赤西で 1 匹採集している(21-V-1979)。

また同日同じく樹皮下からノコギリホソカツムシ *Endophloeus serratus* Sharp を 2 匹得た。この種は川辺郡猪名川町槻並で薪から得たことがあるが(1 匹, 2-Ⅶ-1978)。県下

での記録は仲田氏の川西市見野、笹部の他に扇の山での記録がある位である。6月6日には地上を歩行中のゴモクムシダマシ *Blindus japonicus* (Seidlitz), 1♀を鳥原で採集したこの種も調べて見たら県下での記録が見当らない。

○ 赤西・音水溪谷のオサムシ

1981年4月12日小倉 滋氏は赤西溪谷で朽木を割って越冬中のクロナガオサムシ *Carabus procerulus* 3♂♂, 1♀, ホソアオクロナガオサムシ *Apotomopterus porrecticollis kansaiensis* 2♂♂, 2♀♀ を採集されて持参頂いた(同行の高橋久夫氏の御話によると一本の朽ち木を割って30頭近くが出て来た由。材の両側から出て真中にはいなかったとのこと)。

筆者の場合この赤西、音水地域での冬季オサ掘りを実施したこともなく夏季の採集もトラップなどの調査も時間的に出来ていなく、自然の状態の採集も余り地上歩行性のものについて注意していなかっただけにほとんどオサムシと云うものゝ採集が出来ていない。ところが記録の方もほとんど無い様なのでこの地域でのオサムシ類の状況はどうなのか全くわからないのが現状だと思っている。

比較的近い千種町千草〜岩野辺あたりでの冬季採集の記録はあるがこの地点とやや離れている。

小倉氏にわざわざもって来ていたゞいたのでこれ等を含めて音水、赤西でのオサムシ類のわかっている状況を記録しておきたい。一応この地域にいるオサムシ類としてはホソアオクロナガオサムシ、オオオサムシ *Carabus dehaanii*, マヤサンオサムシ *C. insulicola maiyasanus*, クロナガオサムシ、マイマイカブリ *Damaster blaptoides* の5種は間違いなくいるがヤコンオサムシの方は記録が無い。5種の状況を簡単に記しておく。

ホソアオクロナガオサムシは今手許に標本は無いが音水で歩行中のものを筆者自身採集している。従って赤西、音水ともこの種はいるようである。

オオオサムシは音水の河原で筆者が採集している(1♂, 11-VI-1972)。これ以外の記録が全く無いが恐らく注意が足りないのだろうと思う。

マヤサンオサムシの方は原での記録があり(1♂, 14-VII-1953, Matsui leg., 近畿, 1979), 筆者自身音水で1♀を採集している(25-VI-1972)。

クロナガオサムシは今回始めてこの地域で記録出来たものである。赤西産の♂は大変細形である。この種は山地性のものは細形になるとのことであるが神戸の藍那とか山の街産のクロナガオサムシも細形であり赤西産とも余り変りはない。♀はやゝづんぐりしている。

マイマイカブリも音水で筆者が採集しているだけである(1♂, 13-V-1973)。もっと広くいそうなのがするのだが――。

以上大雑把に述べたが案外この地域でのオサムシ類と云うのは良くわかっていないと云うのが実状

である（1981年7月17日 引原川をはさんで東南にあたる波賀町水谷で道路上を歩行中のヤコン
オサムシ1匹を採集することが出来た）。(5-IX-1981)

県 関 係 文 献 紹 介

- crude, № 21. B5, 22p. (大阪昆虫同好会機関誌), Dec. 1980.

会名が大阪昆虫同好会になっているが本部は尼崎市であるし、内容も北摂の昆虫関係並びに県関係の報文も結構多く発表される。

- 大阪昆虫同好会「北摂の昆虫(1)蝶類」B5, 80p. Jan. 1981.

前記大阪昆虫同好会の方々を中心に69名の方の協力によってまとめられたもので北摂であるから兵庫県に所属する地域も勿論ふくまれている。従って県関係の蝶に関する文献としては重要である。県関係の地域での蝶は78種の記録と2種の偶産蝶を報告されている。

- 小倉 滋. 三木のカミキリムシ. 三木市自然研究同好会、April, 1981, B5, 28p.

小倉氏が一々タイプを打たれ写真も入れて全部をゼロックスされたもので主として志染中学校の教材に利用されたようである。三木市産83種のカミキリムシに就いての解説であるが14と78, 37と81は共にダブっているので実際には81種である。38のトガリシロオビサビカミキリの学名は違っている。これだけ苦労してまとめられたのであるから採集データが全部とまでなくても入れて頂きたかった。作成の御苦労に敬意を表する。

- 加藤昌宏・武術晴雄. 神戸の蝶(神戸の自然 8).

神戸市立教育研究所刊, A5, 121p. 1981・6月.

本書の出版は早くから小林桂助氏から教えて頂いていたので待っていた。立派な本である。神戸に産する蝶84種に偶産種9種をカラーで図説。蝶の生態観察例とか飼育法なども説明されている。たゞ印象としては図鑑的で(図鑑であれば他にも多くあるので――)。神戸の蝶の特徴的な傾向の表現を出してほしかったと同時に神戸の蝶の歴史の変遷も紹介してほしかった。また種々都合あったと思われるが図示された蝶のデータがほしい。文中のデータももう少し具体的の方が良いと思われる。

- 西村 登．兵庫県円山川水系 八木川の底生動物．関宮町史資料集第3巻，A5，pp.272～332．1981年7月。

県下の陸水生物の第一人者西村氏の著である。大変わかりやすく写真，図を多数挿入されて解説しておられる。

- 兵庫陸水生物同好会々報，㍷ 1-3．1981年，1，2，3月。

本年1月に西村 登氏を中心として“兵庫陸水生物同好会”が結成されその会報が3号迄発行されている。本会は“兵庫県内の陸水生物全般にわたる調査研究を進め郷土の自然の科学的理解を深めるための基礎資料をつくる”ことを目的に掲げられている。

陸水生物に興味のある方々の入会をお奨めする。会費は年間1,000円。事務所は西村 登氏宅（養父郡関宮町関宮1841）である。

- 高橋寿郎，兵庫県のコガネムシ．鳥と自然(22):9-14．1981年9月。

兵庫県に産するコガネムシに就いて概説させて頂いた。本誌並びに拙著“兵庫県の蝶相”の第18号若干部数余分あります御希望あれば送料その他として60円切手4枚御送り下されば送らせて頂きます。

- 蜂谷幸雄，ナガサキアゲハ．阪神間に定着は可能。ちょうちょう，Vol. 4，㍷ 9:27-31．1981年9月。

昨年神戸でナガサキアゲハが数多く採集された。本会々員蜂谷氏も市内で採集した♀から採卵屋外で飼育。内1♂の羽化を見た。それに関連しての報告文である。本年も相変らず数多く見られる。報文別刷著者の御好意で本部に若干あります。御希望の方60円切手3枚御送り下されば郵送致します。

- 足立純一．セグロアシナガバチの一生．A5，67p．1981年9月。

本会々員足立氏の自費出版（1,000部限定）である。大変スッキリした仕上りで各ページ 足立氏のイラスト入りで読み易く、一気に読み終えることが出来る。この様な努力の結果を出版，中・高校などに無料配布されると云う。たゞたゞ敬意を表するだけである。（高橋）。

“兵庫県産甲虫類に関する文献目録・改定版” についてお願いの件

この度1975年に自刊致しました“兵庫県産甲虫類に関する文献目録”の改定版を作製致しました（B5, 44p. 活版, 200部限定）。収録は原則として1980年迄のものとなっていて937文献を収録しております。本来なら兵庫昆虫同好会の皆様には差し上げるべきかもしれませんが印刷費が大変高くなりましたので真に勝手ですが1部送料共1,000円にて御買求め頂きその売上金を会の運転資金に充当致し度いと考えます。会の財政状態が大変悪いので是非皆様には1冊以上御買求め頂きまして運転資金確保に御協力を御願い致し度く存じます。何卒宜敷く御願い致します。

尚送金は振替神戸72052加入者名高橋寿郎を御利用頂ければと思います（1982年度会費と一諸に御送金頂いても結構です）。

○ 交 換 誌

下記交換誌が送られてきております。本部に保管していますので御利用下さい。

琉球の昆虫, №5, はべる, №23~27（沖縄昆虫同好会）。

Crude, №21（大阪昆虫同好会）。

横須賀市博物館資料集 第5号。

横須賀市博物館々報 №27。

編 集 後 記

- 本年も相変わらず神戸市内ではナガサキアゲハが多く夏休み児童採集品同定会にも結構持って来ておりました。どうやら神戸あたりには定着し始めたのではないかと喜んでいます。
- 所謂採集のシーズンは終わりました。整理の結果の報告の投稿をお待ち致しております。
- 最近では地元新聞（平野新聞、発行部数 10,000、毎月 5 日発行）へ“うらやまの虫たち”連載を引き受けて網ならぬカメラで虫を追いかけています。
- 前号でお知らせ致しましたように 8 月 1 日～8 月 15 日 神鉄ギャラリー“かもめ”で“コガネムシ・カブトムシ展”を開催（272 種、1021 頭出品）好評を頂きました。引続き毎年開催を希望されていますがどうなりますことやら。
- 会の財政も大変逼迫しています。10 巻は据置きで頑張って見ますが 11 巻には若干の値上げをお願いしなくてはと考えています。
- 次号 Vol. 10, No. 1 は 1982 年 5 月発行の予定です。投稿を切に御願います（原稿は 3 月迄に。原稿用紙を御使用下さい）。来年度の会費の方も宜しく（T）。

きべりはむし 第 9 巻第 2 号

昭和 56 年 11 月 25 日発行

発行：兵庫昆虫同好会

〒652 神戸市兵庫区氷室町 1 丁目 44 高橋寿郎方

印刷：樹文尚堂

〒652 神戸市兵庫区下沢通 3 丁目 4-11